エレミヤ書50－52章 「イスラエルのために復讐する方」

1A 捕らえられるバビロン 50

1B ベルの辱め 1－10

2B 相続地の略奪 11－20

3B 主への争い 21－28

4B 主への高ぶり 29－40

5B 蒔いた物の刈り取り 41－46

2A 逃げるイスラエル 51

1B 奮い立つ破壊の霊 1－10

2B 主の復讐 11－24

3B イスラエルの訴え 25－44

4B 刻んだ像への罰 45－58

5B 川に沈む巻物 59－64

3A 神の言葉の成就 52

1B ゼデキヤ王の最後 1－11

2B エルサレムの最後 12－27

3B 捕囚の民の最後 28－34

本文

エレミヤ書 50 章からです。私たちはこれまで、ユダとエルサレムに対する神の裁きの預言、そしてその周囲にある国々に対する預言を読んでいきました。その裁きの背景にあるのは、すべて「バビロン」でした。神がバビロンの王ネブカデネザルを何度か「わたしのしもべ」と呼ばれるほど、神の裁きの器となっていました。それぞれの国が、特にユダとエルサレムが、神からの懲らしめとしてバビロンによる破壊を経験するのです。しかし、裁きの器であったバビロン自身が滅びます。彼らがしていることが、神の正しい裁きに用いられたからといって、正当化されるのでは全くないのです。

主は悪をも用いられて、私たちに清めや裁きを行なわれる方であることを学びました。しかし、神は終わりには必ず全てに対する報いをお与えになります。全てのものを真っ直ぐにされます。黙示録は、そういった書物です。真実で正しい神がほめたたえられています。そして、ご自分の民を愛してやまない神は、ご自分のものに触れてきたものを個人的に受けとめられます。サウロがキリスト者を迫害して、イエス様が「なぜわたしを迫害するのか。」と言われたように、ご自分を愛する者に手出しをした者は、ご自身に手を出したとみなされるのです。その、主の愛の御手をこれから読む三章で感じ取っていきたいです。

1A 捕らえられるバビロン 50

1B ベルの辱め 1－10

50:1 主が預言者エレミヤを通して、バビロンについて、すなわちカルデヤ人の国について語られたみことば。50:2 「諸国の民の間に告げ、旗を掲げて知らせよ。隠さずに言え。『バビロンは捕えられた。ベルははずかしめられ、メロダクは砕かれた。その像ははずかしめられ、その偶像は砕かれた。』50:3 なぜなら、北から一つの国がここに攻め上り、この地を荒れ果てさせたからだ。ここには住む者もない。人間から家畜に至るまで逃げ去った。

「ベル」はバビロンの主神でマルドゥクとも呼ばれます。これまで私たちは、周囲の国々が滅ぼされる時、その神々が無力であり、何の役にも立たない姿を見てきました。それは、当時は国と国が戦うのは、その国を代表する神と神の戦いだと考えられていたからです。今度は、バビロンの神ベル、そしてもう一つの神メロダクが砕かれたわけです。相手は、「北」、メディヤ人のことです。今のイラクの北部、クルド人が住んでいるところです。メディヤとペルシヤが連合してバビロンを攻めたのが紀元前 539 年です。

けれどもこれから読んでいく預言は、単にそのことだけを語っているのではないことに気づきます。バビロンが荒れ果てると預言されていますが、バビロンを倒した時、その住民の半分はバビロンが倒れたことをさえ気づかない状態でした。それだけ速やかに、多くの血を流すことなく戦いが終わったのです。そしてペルシヤの王はその宮殿を使い続けました。ギリシヤの時代になった時、アレキサンダーがここを使いました。そして、そうこうしているうちに、その宮殿は廃れ、ローマの時代には完全な廃墟となりました。だから、単に紀元前 539 年の出来事を描いているだけでなく、その後に起こることも含み、さらには終わりの日に起こることを予告しています。黙示録 17 章と 18 章に王たちと淫行を働く淫婦、大バビロンが出てきますね。それが倒壊する姿を私たちはそこで読みますが、この出来事をも予め表しているのです。

50:4 その日、その時、・・主の御告げ。・・イスラエルの民もユダの民も共に来て、泣きながら歩み、その神、主を、尋ね求める。50:5 彼らはシオンを求め、その道に顔を向けて、『来たれ。忘れられることのないとこしえの契約によって、主に連なろう。』と言う。50:6 わたしの民は、迷った羊の群れであった。その牧者が彼らを迷わせ、山々へ連れ去った。彼らは山から丘へと行き巡って、休み場も忘れてしまった。50:7 彼らを見つける者はみな彼らを食らい、敵は『私たちには罪がない。彼らが、正しい牧場である主、彼らの先祖の望みであった主に、罪を犯したためだ。』と言った。50:8 バビロンの中から逃げ、カルデヤ人の国から出よ。群れの先頭に立つやぎのようになれ。50:9 見よ。わたしが、大国の集団を奮い立たせて、北の地からバビロンに攻め上らせる。彼らはこれに向かって陣ぞなえをし、これを攻め取る。彼らの矢は、練達の勇士の矢のようで、むなしくは帰らない。50:10 カルデヤは略奪され、これを略奪する者はみな満ち足りる。・・主の御告げ。・・

北イスラエルでアッシリヤに捕えられた民も含めて、バビロンが崩壊した後に、シオンに戻ってく

る預言です。彼らはその時に、主を尋ね求めつつ、シオン、エルサレムに戻ることができています。7 節にバビロンの思いが書いてありますが、これが彼らの大きな間違いでありました。それは、「自分たちが、正しい神に用いられたのだから、我々がしていることは正しいことなのだ。」ということです。いいえ、神は単に、悪をさえ用いられてご自分の正しい裁きを行なわれたのであって、バビロンがエルサレムを滅ぼし、ユダヤ人を捕え移して虐げていることを正しいとしておられるのではありません。むしろ、そのことのゆえに、神は激しい怒りを示されるのです。

ここにある神の御心が、私たちの思いをはるかに超えています。私たちはどうしても、互いに比較しながら生きています。より正しい人であれば、祝福と報いが与えられ、悪い人であれば、悪いことが起こる、とします。けれども、神は徹頭徹尾、ご自分だけが正しい方であり、被造物はもっぱら神との比較の中で生きなければいけないのです。イスラエルは神に愛された民であるがゆえに、自分たちの神への背きを、神はバビロンによるエルサレム破壊によって懲らしめられました。しかし、神は正しい方であり、イスラエルを愛してやまがいがゆえに、バビロンに対しては完膚なきまで滅ぼされるのです。

2B　相続地の略奪　11－20

50:11 わたしの相続地を略奪する者たち。あなたがたは楽しみ、こおどりして喜び、穀物を打つ雌の子牛のようにはしゃぎ、荒馬のようにいなないても、50:12 あなたがたの母はいたく恥を見、あなたがたを産んだ者ははずかしめを受けた。見よ。彼女は国々のうちの最後の者、荒野となり、砂漠と荒れた地となる。50:13 主の怒りによって、そこに住む者はなく、ことごとく廃墟と化する。バビロンのあたりを通り過ぎる者はみな、色を失い、そのすべての打ち傷を見てあざける。50:14 すべて弓を張る者よ。バビロンの回りに陣ぞなえをし、これを射よ。矢を惜しむな。彼女は主に罪を犯したのだから。50:15 その回りに、ときの声をあげよ。彼女は降伏した。その柱は倒れ、その城壁はこわれた。これこそ主の復讐だ。彼女に復讐せよ。彼女がしたとおりに、これにせよ。50:16 種を蒔く者や、刈り入れの時にかまを取る者を、バビロンから切り取れ。しいたげる者の剣を避けて、人はおのおの自分の民に帰り、自分の国へ逃げて行く。」

イスラエルの地に、バビロンのカルデヤ人がやって来て、そこを我が物としていることに対する神の裁きであります。まず、バビロンが滅んだ時にバビロンによってそこで耕作をしていた人々が逃げ帰ります。バビロンは帝国なので、人々はカルデヤ人だけでなく他の国々の人もいるので、彼らは各々自分の国に戻ります。それから、バビロンの都そのものを神は廃墟とされます。

ここで大事な言葉は、「わたしの相続地」という 11 節にあるものです。イスラエルの民が神の所有であるだけでなく、その土地も神のものであります。ですから、イスラエル人から土地を奪ったのではなく、本質的には神から奪ったことになります。それで神が強く反応しておられるのです。14 節に、「彼女は主に罪を犯した」と言われていますが、このことが罪だったのです。十戒においても、この考えが貫かれています。殺すなというのは、その命が神のものだからです。姦淫するなは、女

性の性、男性の性を与えられたのは神ご自身だからです。盗むことが禁じられるのは、誰かに所有しているものは、神がその人に任せられたからです。これらの掟を破るのは、神ご自身から奪い取っていることに他なりません。

そして次に大事な言葉は、「復讐」です。神にしかできないもので、人間には権利が与えられていないものが、いくつかあります。一つは命を取ることですね。神は人に命を与え、また命を取られます。そして、もう一つは「裁く」ことです。イエス様は、「さばいてはいけません。さばかれないためです。（マタイ 7:1）」と言われました。イエス様は、裁くことがいけないのだということを言われているのではありません。そうではなく、正しく裁くのは神だけができるのだということです。命を取ることもそうですが、命を取ること自体は間違っていないのです。神は命を取られます。神が裁かれます。問題なのは、神のみが行われる領域に人が介入することなのです。ゆえに、主がこれからバビロンに対する徹底的な復讐を語られますが、これは言い換えれば、「わたしが必ず、復讐する。復讐はわたしに任せなさい。」ということであります。

50:17 イスラエルは雄獅子に散らされた羊。先にはアッシリヤの王がこれを食らったが、今度はついに、バビロンの王ネブカデレザルがその骨まで食らった。50:18 それゆえ、イスラエルの神、万軍の主は、こう仰せられる。「見よ。わたしはアッシリヤの王を罰したように、バビロンの王とその国を罰する。50:19 わたしはイスラエルをその牧場に帰らせる。彼はカルメルとバシャンで草を食べ、エフライムの山とギルアデで、その願いは満たされる。50:20 その日、その時、・・主の御告げ。・・イスラエルの咎は見つけようとしても、それはなく、ユダの罪も見つけることはできない。わたしが残す者の罪を、わたしが赦すからだ。」

イスラエルの国は、まず北イスラエルがアッシリヤによって紀元前 722 年に捕え移されました。そして残りのユダをバビロンが紀元前 586 年に連れ去りました。それを、獅子が羊を骨までしゃぶったと表現しておられます。けれども、主はその牧場の羊を元のところに戻してくださいます。そして素晴らしい約束は、「罪を見つけることができない」までの赦しです。主は罪を赦して、それを思い起こすことも止められた方です！ですから、こう考えることができます。皆さんが過去の罪で責められる時に、キリストの十字架による贖いが不十分であるかのように感じられる時、その時、背後ではアッシリヤやバビロンのような敵、サタンがいます。しかし、主は悪魔を完膚なきまで滅ぼしてくださいます。

3B 主への争い 21－28

50:21 「メラタイムの地、ペコデの住民のところに攻め上れ。彼らを追って、殺し、彼らを聖絶せよ。・・主の御告げ。・・すべて、わたしがあなたに命じたとおりに、行なえ。」50:22 「国中には戦いの声、大いなる破滅。50:23 万国を打った鉄槌は、どうして折られ、砕かれたのか。バビロンよ。どうして国々の恐怖となったのか。50:24 バビロンよ。わたしがおまえにわなをかけ、おまえは捕えられた。おまえはそれを知らなかった。おまえは見つけられてつかまえられた。おまえが主に争

いをしかけたからだ。50:25 主はその倉を開いて、その憤りの武器を持ち出された。それは、カルデヤ人の国で、万軍の神、主の、される仕事があるからだ。50:26 四方からそこに攻め入れ。その穀物倉を開け。これを麦束のように積み上げ、これを聖絶して、何一つ残すな。50:27 その雄牛をみな滅ぼせ。ほふり場に下らせよ。ああ。哀れな彼ら。彼らの日、その刑罰の時が来たからだ。」50:28 聞け。バビロンの国からのがれて来た者が、シオンで、私たちの神、主の、復讐のこと、その宮の復讐のことを告げ知らせている。

「メラタイム」というのはバビロン南部の町です。「ペコデ」はそこに住むアラム系の住民ですが、ここで大事なのはそのヘブル語の意味です。メラタイムは「二重の反逆」ペコデは「罰」です。つまり、バビロンの反逆に対し神が罰を下される、ということです。バビロンに争いがしかけられています。それは主ご自身がメディヤ人を通してバビロンに争っておられるからです。なぜ、主が争っておられるのか？それは、「おまえが主に争いをしかけたからだ。」と主は 24 節で語っておられます。午前中にお話ししましたが、主を認めて、この方と共に歩むことなく、いつまでも偽りの神を拝み、イスラエルの民を虐げ、自分たちの富と力を誇っていることによって、主に対して争っていました。そして、バビロンが主によって滅ぼされるのと同じように、この世にあるものは再臨の主ご自身によって滅ぼされます。人は主に服しているのか、それとも言い逆らっているのかの二者択一です。

そして 28 節は、「バビロンの国からのがれて来た者」、シオンあるいはエルサレムに帰還した者の言葉です。この世と世の欲に対して神は滅亡を与えられますが、シオンを自分の都としている民はそこから逃れるような心備えができているか？という問いかけです。世からの反対が強いので、世に順応することのほうが楽です。しかし、そうすれば世が滅ぼされる時に、自分も混乱し、慌てふためきます。シオンは、神がバビロンに対抗して、ご自分の都として建てられた所です。ですから黙示録は、バビロンの崩壊を宣言した後に、主イエスが再臨してから天からのエルサレムを示しておられます。エルサレムに帰還して、主の復讐を語っているのと同じように、キリスト者の大切にしているものを無き物にしているこの世が滅ぼされることを、むしろ内からの解放として私たちが捕えられるか？であります。

4B 主への高ぶり 29－40

50:29 射手を呼び集めてバビロンを攻め、弓を張る者はみな、これを囲んで陣を敷き、ひとりものがすな。そのしわざに応じてこれに報い、これがしたとおりに、これにせよ。主に向かい、イスラエルの聖なる方に向かって高ぶったからだ。50:30「それゆえ、その日、その若い男たちは町の広場に倒れ、その戦士もみな、断ち滅ぼされる。・・主の御告げ。・・50:31 高ぶる者よ。見よ。わたしはあなたを攻める。・・万軍の神、主の御告げ。・・あなたの日、わたしがあなたを罰する時が来たからだ。50:32 そこで、高ぶる者はつまずき倒れ、これを起こす者もいない。わたしは、その町に火をつける。火はそのまわりのものをすべて焼き尽くす。」

メディヤ人たちが、弓によってバビロンに入り込んで、バビロンの戦士たちが倒れています。そし

て主がここで責めておられる言葉は、「主に向かい、イスラエルの聖なる方に向かって高ぶったからだ。」であります。ダニエル書 5 章を読むと、バビロンの宮廷に酒乱の宴会を開いている、バビロンの最後の王ベルシャツァルの姿が出てきます。ダニエルは彼に、次のように言いました。「5:23 それどころか、天の主に向かって高ぶり、主の宮の器をあなたの前に持って来させて、あなたも貴人たちもあなたの妻もそばめたちも、それを使ってぶどう酒を飲みました。あなたは、見ることも、聞くことも、知ることもできない銀、金、青銅、鉄、木、石の神々を賛美しましたが、あなたの息と、あなたのすべての道をその手に握っておられる神をほめたたえませんでした。」ネブカデネザルが、バビロンの栄光と富は自分のおかげだと豪語したことに対して、神は彼を獣のようにされました。それを知りながら、ベルシャツァルはエルサレムの神の宮から持ってきた器で、バビロンの神々である偶像を賛美しました。これは意図的であり、イスラエルの神を敢えて認めず、自分たちのほうが優れているのだと高ぶったのです。私たちがまことの神ではなく、自分のもっているもの、していることをさらに上に掲げるのであれば、それが裁かれるべき高ぶりであります。

50:33 万軍の主はこう仰せられる。「イスラエルの民とユダの民は、共にしいたげられている。彼らをとりこにした者はみな、彼らを捕えて解放しようとはしない。」50:34 彼らを贖う方は強く、その名は万軍の主。主は、確かに彼らの訴えを支持し、この国をいこわせるが、バビロンの住民を震え上がらせる。50:35 剣が、カルデヤ人にも、・・主の御告げ。・・バビロンの住民、その首長たち、知恵ある者たちにも下る。50:36 剣が自慢する者たちにも下り、彼らは愚かになる。剣がその勇士たちにも下り、彼らはおののく。50:37 剣がその馬と車と、そこに住む混血の民にも下り、彼らは女のようになる。剣がその財宝にも下り、それらはかすめ取られる。50:38 その水の上には、ひでりが下り、それはかれる。ここは刻んだ像の国で、彼らは偶像の神に狂っているからだ。50:39 それゆえ、そこには荒野の獣が山犬とともに住み、だちょうがそこに住む。もう、いつまでも人は住まず、代々にわたって、住む人はない。50:40 神がソドムと、ゴモラと、その近隣を滅ぼされたように、・・主の御告げ。・・そこには人が住まず、そこには人の子が宿らない。

神が力をもって、イスラエルをバビロンから贖い出すと言っておられます。なぜなら、彼らを出させようとしないからです。かつてのエジプトのパロと同じですね、「わたしの民を出て行かせなさい」とモーセによって神はパロに語られたのに、パロは出て行かせませんでした。それで神は、災いを下して力をもって、イスラエルを贖い出されました。

そして、主はそこを日照りとし、廃墟とすると宣言されています。ソドムとゴモラが緑豊かなところであったけれども、廃墟と神がされたように、永遠に人の住まないところとすると言われます。今のバビロンに行けば、そこは遺跡があり、人の住んでいない廃墟です。そして、神の国、千年王国があっても、バビロンのところは廃墟のままでありましょう。そして、彼らをそこまでする理由として、「ここは刻んだ像の国で、彼らは偶像の神に狂っている」ということです。バビロンにある偶像礼拝は気が狂っていると言われてもおかしくないほどのものでした。まことの神につながらず、偶像や像にしがみついているならば、最後は、霊的な荒廃をもたらします。

5B　蒔いた物の刈り取り　41－46

50:41　見よ。一つの民が北から来る。大きな国と多くの王が地の果て果てから奮い立つ。50:42 彼らは弓と投げ槍を堅く握り、残忍で、あわれみがない。その声は海のようにとどろく。バビロンの娘よ。彼らは馬に乗り、ひとりのように陣ぞなえをして、あなたを攻める。50:43　バビロンの王は、彼らのうわさを聞いて気力を失い、産婦のような苦しみと苦痛に捕えられる。50:44「見よ。獅子がヨルダンの密林から水の絶えず流れる牧場に上って来るように、わたしは一瞬にして彼らをそこから追い出そう。わたしは、選ばれた人をそこに置く。なぜなら、だれかわたしのような者があろうか。だれかわたしを呼びつける者があろうか。だれかわたしの前に立つことのできる牧者があろうか。」50:45　それゆえ、バビロンに対してめぐらされた主のはかりごとと、カルデヤ人の国に対して立てられたご計画を聞け。必ず、群れの小さい者まで引きずって行かれ、必ず、彼らの牧場はそのことでおびえる。50:46　バビロンの捕えられる音で地は震え、その叫びが国々の間でも聞こえた。

ここの言葉は、非常に興味深いです。なぜなら、42 節の言葉は、まさに主がバビロンを用いて、エルサレムを滅ぼされることを宣言された時に使われた表現そのものだからです。6 章 23 節に、こう書いてあります。「彼らは弓と投げ槍を堅く握り、残忍で、あわれみがない。その声は海のようにとどろく。シオンの娘よ。彼らは馬にまたがり、ひとりのように陣備えをして、あなたを攻める。」そして、44 節の言葉は、エドムに対して神が語られたのと同じです（49:19-21）。そして実は、先に出てきた、永遠の廃墟、ソドムとゴモラにようになると言われたのも、エドムに対する神の裁きの中で語られています。つまり、「自分が行なったことに対して、主がそのままで報復しておられる。」ということです。「人は種を蒔けば、その刈り取りもすることになります。（ガラテヤ 6:7）」そして、迫害を受けているテサロニケ人の信者に対して、「あなたがたを苦しめる者には、報いとして苦しみを与え」ると言われました（2テサロニケ 1:6）。

2A　逃げるイスラエル　51

1B　奮い立つ破壊の霊　1－10

51:1　主はこう仰せられる。「見よ。わたしはバビロンとその住民に対し、破壊する者の霊を奮い立たせ、51:2　他国人たちをバビロンに送る。彼らはこれを吹き散らし、その国を滅ぼす。彼らは、わざわいの日に、四方からこれを攻める。」51:3　射手には弓を張らせ、よろいを着けてこれを襲わせよ。そこの若い男を惜しむことなく、その全軍を聖絶せよ。51:4　刺し殺された者たちが、カルデヤ人の国に倒れ、突き刺された者たちが、そのちまたに倒れる。51:5　しかし、イスラエルもユダも、その神、万軍の主から、決して見捨てられない。彼らの国は、イスラエルの聖なる方にそむいた罪に満ちていたが。

イスラエル人たちが、今、バビロンの中にいます。そしてメディヤ人たちがバビロンを攻めるように神がなされます。しかし、その攻撃はイスラエル人たちに向けられたものではありません。もちろん、彼らは罪を犯してきました。けれども、その罪を神は永遠の赦しの中で赦し、彼らを決して見

捨てておられません。これは、この世に生きる私たちの姿です。私たちも罪を犯しました。けれども、キリストの流された血潮によって、世が滅びる時に共に滅びるようには定められていないのです。

51:6 バビロンの中から逃げ、それぞれ自分のいのちを救え。バビロンの咎のために絶ち滅ぼされるな。これこそ、主の復讐の時、報いを主が返される。51:7 バビロンは主の御手にある金の杯。すべての国々はこれに酔い、国々はそのぶどう酒を飲んで、酔いしれた。51:8 たちまち、バビロンは倒れて砕かれた。このために泣きわめけ。その痛みのために乳香を取れ。あるいはいやされるかもしれない。51:9 私たちは、バビロンをいやそうとしたのに、それはいやされなかった。私たちはこれを見捨てて、おのおの自分の国へ帰ろう。バビロンへの罰は、天に達し、大空まで上ったからだ。51:10 主は、私たちの正義の主張を明らかにされた。来たれ。私たちはシオンで、私たちの神、主のみわざを語ろう。

バビロンを滅ぼすので、そこから逃げなさいと主は命じられます。これはちょうど、主がソドムを滅ぼされる時に、ソドムから逃げなさいと言われているのと似ています。主は、キリスト者にもこのような救いを与えられます。ご自分の怒りを地上に注がれるにあたり、キリスト者をこの世から救い出されます（1テサロニケ 4:16,5:9）。そして、バビロンが「すべての国々はこれに酔」う金の杯だと言っています。これは、バビロンのもたらす富によって世界中の国々が酔いしれているということです。これが午前礼拝でお話しした、「権力や力を持った者たちが必然的に独占的な利益を持つ仕組み」であります。黙示録 17 章において、大淫婦の女が国々の王たちと不品行を行ない、金の杯を持っているところに表れています。そのような世の仕組みを主が破壊されようとしています。そこにイスラエル人たちが、癒されるように願って神の言葉を伝えます。ところが、それを拒みます。それで逃げるのです。私たちも同じでしょう。この地が癒されるように御言葉を伝えます。しかしそれを拒むのであれば、私たちは地から取り上げられ、そして神が地上に災いを下されるのです。

2B 主の復讐 11－24

51:11 矢をとぎ、丸い小盾を取れ。主はメディヤ人の王たちの霊を奮い立たせられた。主の御思いは、バビロンを滅ぼすこと。それは主の復讐、その宮のための復讐である。51:12 バビロンの城壁に向かって旗を揚げよ。見張りを強くし、番兵を立てよ。伏兵を備えよ。主ははかりごとを立て、バビロンの住民について語られたことを実行されたからだ。51:13 大水のほとりに住む財宝豊かな者よ。あなたの最期、あなたの断ち滅ぼされる時が来た。51:14 万軍の主はご自分をさして誓って言われた。「必ず、わたしはばったのような大群の人をあなたに満たす。彼らはあなたに向かって叫び声をあげる。」51:15 主は、御力をもって地を造り、知恵をもって世界を堅く建て、英知をもって天を張られた。51:16 主が声を出すと、水のざわめきが天に起こる。主は地の果てから雲を上らせ、雨のためにいなずまを造り、その倉から風を出される。51:17 すべての人間は愚かで無知だ。すべての金細工人は、偶像のために恥を見る。その鋳た像は偽りで、その中に息がないからだ。51:18 それは、むなしいもの、物笑いの種だ。刑罰の時に、それらは滅びる。51:19 ヤコブの分け前はこんなものではない。主は万物を造る方。イスラエルは主ご自身の部族。その御名

は万軍の主である。

11 節によると、ここは、主の宮を荒らしたことに対するバビロンへの裁きです。「その宮のための復讐」とあります。これまで、イスラエルの民を虐げたこと、そして相続地を我が物としたことに対して裁かれましたが、エルサレムの宮を荒らしたことを裁かれます。先に話しましたように、バビロンは神の宮から、そのために聖別された器を持ってきて、バビロンの神々の宮に保管しました。そして、バビロンの神々を賛美するために、その器を使ったのです。これはとてつもない、罪であります。私たちは今、聖霊が宿られることで教会が神の宮になっていますが、その礼拝を無き物にしようとするならば、神は最も激しい憤りで怒られます。13 節に、「大水のほとりに住む財宝豊かな者」とありますが、バビロンの都はユーフラテス川が真ん中に流れているのですが、それを形容していますが、その彼らを断ち滅ぼされます。

そして主は、偶像礼拝の愚かしさを知らせるために、ご自身の天地を創造し、雨を降らせるその偉大さと力を示されています。この神をなぞらえるために、人が像を造るなんて愚かであります。ところが、私たちは絶えず、自分の心の中で願っていることがあります。この願っていることこそが、神の御心であるという信仰の持ち方をしているのであれば、それは実は天地を造られた神ではなく、偶像そのものであります。19 節に、イスラエルの分け前はこんなものではない、とありますね。これは私たちも同じです。私たちは自分たちの実現するようなものを受け継ぐのではありません、天地を造られた神のものを受け継ぐのです。

51:20「あなたはわたしの鉄槌、戦いの道具だ。わたしはあなたを使って国々を砕き、あなたを使って諸王国を滅ぼす。51:21 あなたを使って馬も騎手も砕き、あなたを使って戦車も御者も砕き、51:22 あなたを使って男も女も砕き、あなたを使って年寄りも幼い者も砕き、あなたを使って若い男も若い女も砕き、51:23 あなたを使って牧者も群れも砕き、あなたを使って農夫もくびきを負う牛も砕き、あなたを使って総督や長官たちも砕く。51:24 わたしはバビロンとカルデヤの全住民に、彼らがシオンで行なったすべての悪のために、あなたがたの目の前で報復する。・・主の御告げ。・・

ここの「あなた」は、おそらくペルシヤ人のクロス王でしょう。イザヤ書の中で、ユダヤ人をバビロンから解放するために用いられると預言された器です。バビロンに鉄槌を打つためにクロスが用いられました。そして 24 節に、このことが主の報復の時であることが書かれています。主のために敬虔に生きようとする者は必ず、迫害を受けます。ですから、主が報復してくださるという信仰は必要です。

3B イスラエルの訴え 25－44

51:25 全地を破壊する、破壊の山よ。見よ。わたしはおまえを攻める。・・主の御告げ。・・わたしはおまえに手を伸べ、おまえを岩から突き落とし、おまえを焼け山とする。51:26 だれもおまえか

ら石を取って、隅の石とする者はなく、礎の石とする者もない。おまえは永遠に荒れ果てる。・・主の御告げ。・・51:27 この地に旗を掲げ、国々の中に角笛を鳴らせ。国々を整えてこれを攻めよ。アララテ、ミニ、アシュケナズの王国を召集してこれを攻めよ。ひとりの長を立ててこれを攻めよ。群がるばったのように、馬を上らせよ。51:28 国々を整えてこれを攻めよ。メディヤ人の王たち、その総督やすべての長官たち、その支配する全土の民を整えて、これを攻めよ。51:29 地は震え、もだえる。主はご計画をバビロンに成し遂げ、バビロンの国を住む者もない荒れ果てた地とされる。51:30 バビロンの勇士たちは戦いをやめて、とりでの中にすわり込み、彼らの力も干からびて、女のようになる。その住まいは焼かれ、かんぬきは砕かれる。51:31 飛脚はほかの飛脚に走り次ぎ、使者もほかの使者に取り次いで、バビロンの王に告げて言う。「都はくまなく取られ、51:32 渡し場も取られ、葦の舟も火で焼かれ、戦士たちはおじ惑っている。」

メディヤ・ペルシヤがバビロンを攻めることについて、そこで主が強く命じておられる姿です。27節に「アララテ、ミニ、アシュケナズ」とありますが、アララテとミニはアルメニアにある地域で、アシュケナズは黒海辺りにいる人々で、クロスはこの地域を梃子にしてバビロンを攻めました。

51:33 イスラエルの神、万軍の主が、こう仰せられたからだ。「バビロンの娘は、踏まれるときの打ち場のようだ。もうしばらくで、刈り入れの時が来る。51:34 『バビロンの王ネブカデレザルは、私を食い尽くし、私をかき乱して、からの器にした。竜のように私をのみこみ、私のおいしい物で腹を満たし、私を洗い流した。』51:35 シオンに住む者は、『私と私の肉親になされた暴虐は、バビロンにふりかかれ。』と言え。エルサレムは、『私の血はカルデヤの住民に注がれよ。』と言え。」51:36 それゆえ、主はこう仰せられる。「見よ。わたしはあなたの訴えを取り上げ、あなたのために報復する。わたしはその海を干上がらせ、その泉をからす。51:37 バビロンは石くれの山となり、ジャッカルの住みかとなり、恐怖、あざけりとなる。51:38 彼らは共に、若獅子のようにほえ、雄獅子のように叫ぶ。51:39 彼らがいらだっているとき、わたしは彼らに宴会を開き、彼らを酔わせて踊らせ、永遠の眠りについて、目ざめないようにする。・・主の御告げ。・・51:40 わたしは彼らを、子羊のように、また雄羊か雄やぎのように、ほふり場に下らせる。51:41 ああ、バビロンは攻め取られ、全地の栄誉となっていた者は捕えられた。ああ、バビロンは国々の間で恐怖となった。51:42 海がバビロンの上にのしかかり、その波のざわめきにそれはおおわれた。51:43 その町々は荒れ果て、地は砂漠と荒れた地となり、だれも住まず、人の子が通りもしない地となる。51:44 わたしはバビロンでベルを罰し、のみこんだ物を吐き出させる。国々はもう、そこに流れ込むことはない。ああ、バビロンの城壁は倒れてしまった。

33 節から 35 節までには、ネブカデネザルがエルサレムに対してしたことに対して、シオンに住む者たちが復讐を神に願っている場面です。そして 36 節以降は、その願いを聞かれて実行しておられる神の姿であります。復讐を願うことは、黙示録においても聖徒たちが願っていることであり、地上に災いを下すことを願っています。私たちは、自分の手で復讐しないために、この祈りが必要です。主が裁かれる方ですから、裁きを主に任せることによって、その迫害や苦難を耐え忍

ぶことができます。

4B　刻んだ像への罰　45－58

51:45 わたしの民よ。その中から出よ。主の燃える怒りを免れて、おのおの自分のいのちを救え。51:46 そうでないと、あなたがたの心は弱まり、この国に聞こえるうわさを恐れよう。うわさは今年も来、その後の年にも、うわさは来る。この国には暴虐があり、支配者はほかの支配者を攻める。51:47 それゆえ、見よ、その日が来る。その日、わたしは、バビロンの刻んだ像を罰する。この国全土は恥を見、その刺し殺された者はみな、そこに倒れる。51:48 天と地とその中のすべてのものは、バビロンのことで喜び歌う。北からこれに向かって、荒らす者たちが来るからだ。・・主の御告げ。・・51:49 バビロンは、イスラエルの刺し殺された者たちのために、倒れなければならない。バビロンによって、全地の刺し殺された者たちが倒れたように。51:50 剣からのがれた者よ。行け。立ち止まるな。遠くから主を思い出せ。エルサレムを心に思い浮かべよ。51:51『私たちは、そしりを聞いて、はずかしめを受けた。他国人が主の宮の聖所にはいったので、侮辱が私たちの顔をおおった。』」

主は、イスラエルの民に、バビロンにいてはならないと命じられます。いすぎるとどうなるのでしょうか？バビロンに襲いかかる暴虐のゆえに、自分自身も恐れるようになるというのです。そうですね、私たちが世にいても、世と一緒になってはいけません。一緒になればそれだけ、神が世に対して裁かれるその裁きを自分自身も感じてしまうのです。その反対であるべきで、48 節にあるように天においても、地においてもバビロンの崩壊は喜びであり、歓声が飛び交うのです。そして 50 節では、「エルサレムを心に思い浮かべよ。」とあります。バビロンに下る剣を免れ、そして今、エルサレムに帰還しています。同じように私たちも、この地上に下る災いを免れるようにして生きながら、なおのこと天から来るエルサレムを求めているのです。

51:52「それゆえ、見よ、その日が来る。・・主の御告げ。・・その日、わたしは、その刻んだ像を罰する。刺された者がその全土でうめく。51:53 たといバビロンが天に上っても、たとい、そのとりでを高くして近寄りがたくしても、わたしのもとから荒らす者たちが、ここに来る。・・主の御告げ。・・」51:54 聞け。バビロンからの叫び、カルデヤ人の地からの大いなる破滅の響きを。51:55 主がバビロンを荒らして、そこから大いなる声を絶やされるからだ。その波は大水のように鳴りとどろき、その声は鳴りどよめく。51:56 荒らす者がバビロンを攻めに来て、その勇士たちは捕えられ、その弓も折られる。主は報復の神で、必ず報復されるからだ。51:57「わたしは、その首長たちや、知恵ある者、総督や長官、勇士たちを酔わせる。彼らは永遠の眠りについて、目ざめることはない。・・その名を万軍の主という王の御告げ。・・」51:58 万軍の主はこう仰せられる。「バビロンの広い城壁は、全くくつがえされ、その高い門も火で焼かれる。国々の民はむなしく労し、諸国の民は、ただ火に焼かれるために疲れ果てる。」

バビロンの破壊の宣言でありますが、最後に、その破壊に対して諸国の民が疲れ果てる、とあり

ます。これは安息とは反対の心の状態です。理由は、「むなしく労」したからです。これまでやって来たものが、一気に無くなってしまうのですから、空しさを感じます。ソロモンが伝道者の書で、労したものが水に流れるように無駄になることを知って、それで疲れて、空しくなりました。私たちが、何に宝を積んでいるのかを考えるべきでしょう。天においてなら、残ります。地において価値あるものを見いだそうとするのであれば、空しくなり、疲れ果ててしまいます。

5B 川に沈む巻物 59－64

51:59 マフセヤの子ネリヤの子セラヤが、ユダの王ゼデキヤとともに、その治世の第四年に、バビロンへ行くとき、預言者エレミヤがセラヤに命じたことば。そのとき、セラヤは宿営の長であった。51:60 エレミヤはバビロンに下るわざわいのすべてを一つの巻き物にしるした。すなわち、バビロンについてこのすべてのことばが書いてあった。51:61 エレミヤはセラヤに言った。「あなたがバビロンにはいったときに、これらすべてのことばをよく注意して読み、51:62 『主よ。あなたはこの所について、これを滅ぼし、人間から獣に至るまで住むものがないようにし、永遠に荒れ果てさせる、と語られました。』と言い、51:63 この書物を読み終わったなら、それに石を結びつけて、ユーフラテス川の中に投げ入れ、51:64 『このように、バビロンは沈み、浮かび上がれない。わたしがもたらすわざわいのためだ。彼らは疲れ果てる。』と言いなさい。」ここまでが、エレミヤのことばである。

エレミヤは、ユダの最後の王ゼデキヤの治世の第四年に、側近セレヤに託してバビロンに対する預言を持っていかせました。「ネリヤの子」とありますが、後にバビロンによって総督に任じられたゲダルヤもネリヤの子ですから、兄弟であると言えます。バビロンの属国となっているので、訪問しなければいけなかったのでしょう。その時に巻き物を託しました。そしてその言葉は、「必ず成就する」というものです。ユーフラテス川に沈ませる行為は、バビロンが二度と浮かび上がらないということです。

興味深いことは、この同じ年に、エレミヤは偽預言者ハナヌヤと対決をしていることです（28 章）。ハナヌヤは二年のうちに、主がバビロンの王ネブカデネザルを打って、神の宮の器を取り戻させる、捕囚の民も帰らせると預言していました。そしてハナヌヤはこの偽預言のために神に打たれてその年に死んでいます。エレミヤは、バビロンは攻めてくると教えていたのです。そして、エレミヤはバビロンに服するように教えていたのです。この違いは大きいです。私たちは、悪がなくなるように祈るのではありません。悪が来ても、その中で主に従えるように、忠実な者となれるように祈るのです。そしてその悪については、主が裁かれるように祈るのです。エレミヤは一方でバビロンの破壊を預言し、もう一方でバビロンが主の器であることを預言していたのですが、それは矛盾していませんでした。むしろ悪に対して、どうやって祈り、祝福までを祈るのかを試されるのです。

3A 神の言葉の成就 52

ここまでが「ここまでが、エレミヤのことばである。」とあります。では、次の 52 章はエレミヤの預

言を締めくくるにあたって、誰か他の人が追加したものと考えられます。あとがき、です。ゼデキヤ王の治世から始まって、エルサレムの破壊、バビロンへの捕囚の出来事が記されています。内容は、列王記第二の最後 25 章の記述とほぼ同じです。エレミヤ書の中でこの章が果たす役割は、エレミヤが実際の出来事が起こる前に預言したことがこの預言書に記録されていることに対して、この最後の章は実際に起こった後に記録していることです。エレミヤがいなくなってからかなりの年月が経って、すべての出来事が実際に起こってから書き記したのではないかと言われます。バビロン捕囚から帰還した民の一人、祭司であり書記であるエズラが記したのではないかとも言われています。

1B ゼデキヤ王の最後 1－11

52:1 ゼデキヤは二十一歳で王となり、エルサレムで十一年間、王であった。彼の母の名はハムタルといい、リブナの出のエレミヤの娘であった。52:2 彼は、すべてエホヤキムがしたように、主の目の前に悪を行なった。52:3 エルサレムとユダにこのようなことが起こったのは、主の怒りによるもので、ついに主は彼らを御前から投げ捨てられたのである。そののち、ゼデキヤはバビロンの王に反逆した。52:4 ゼデキヤの治世の第九年、第十の月の十日に、バビロンの王ネブカデレザルは、その全軍勢を率いてエルサレムを攻めに来て、これに対して陣を敷き、周囲に塁を築いた。52:5 こうして町はゼデキヤ王の第十一年まで包囲されていたが、52:6 第四の月の九日、町の中では、ききんがひどくなり、民衆に食物がなくなった。52:7 そのとき、町が破られ、戦士たちはみな逃げて、夜のうちに、王の園のほとりにある二重の城壁の間の門の道から町を出た。カルデヤ人が町を包囲していたので、彼らはアラバへの道を行った。52:8 カルデヤの軍勢が王のあとを追い、エリコの草原でゼデキヤに追いついたとき、王の軍隊はみな王から離れて散ってしまった。52:9 そこでカルデヤ人は王を捕え、ハマテの地のリブラにいるバビロンの王のところへ彼を連れ上った。バビロンの王は彼に宣告を下した。52:10 バビロンの王は、ゼデキヤの子らを彼の目の前で虐殺し、ユダのすべての首長たちをリブラで虐殺した。52:11 またゼデキヤの両眼をえぐり出し、彼を青銅の足かせにつないだ。バビロンの王は、彼をバビロンへ連れて行き、彼を死ぬ日まで獄屋に入れておいた。

ゼデキヤが途中でバビロンに背いたこと、そして、途中で捕まえられ、捕え移されたこと、何も知らなかったからではなく、何度も何度も、エレミヤによってそうなると言われていたのに、聞き従わなかったためであります。主の言葉の通りです。

2B エルサレムの最後 12－27

52:12 第五の月の十日・・それは、バビロンの王ネブカデレザル王の第十九年であった。・・バビロンの王に仕えていた侍従長ネブザルアダンがエルサレムに来て、52:13 主の宮と王宮とエルサレムのすべての家を焼き、そのおもだった建物をことごとく火で焼いた。52:14 侍従長といっしょにいたカルデヤの全軍勢は、エルサレムの回りの城壁を全部取りこわした。52:15 侍従長ネブザルアダンは、民の貧民の一部と、町に残されていた残りの民と、バビロンの王に降伏した者たちと、

残りの群衆を捕え移した。52:16 しかし、侍従長ネブザルアダンは、国の貧民の一部を残し、ぶどう作りと農夫とにした。

ほぼ全ての人を捕え移し、また家々は焼き払いました。エレミヤは前もって伝えていました。「38:18 あなたがバビロンの王の首長たちに降伏しないなら、この町はカルデヤ人の手に渡され、彼らはこれを火で焼き、あなたも彼らの手からのがれることができない。」

52:17 カルデヤ人は、主の宮の青銅の柱と、主の宮にある青銅の車輪つきの台と、海とを砕いて、その青銅をみなバビロンへ運んだ。52:18 また、灰つぼ、十能、心切りばさみ、鉢、平皿、奉仕に用いるすべての青銅の器具を奪った。52:19 また、侍従長は小鉢、火皿、鉢、灰つぼ、燭台、平皿、水差しなど、純金、純銀のものを奪った。52:20 ソロモン王が主の宮のために作った二本の柱、一つの海、車輪つきの台の下にある十二の青銅の牛、これらすべての器具の青銅の重さは、量りきれなかった。52:21 その柱は、一本の柱の高さが十八キュビトで、その回りを測るには十二キュビトのひもがいり、その厚さは指四本分で、中は空洞になっていた。52:22 その上に青銅の柱頭があり、一つの柱頭の高さは五キュビトであり、柱頭の回りに、網細工とざくろがあって、それもみな青銅で、他の柱もざくろもこれと同様であった。52:23 回りには九十六のざくろがあり、回りの網細工の上には全部で百のざくろがあった。

第一次と第二次の捕囚で金や銀の器は持ち運ばれたのですが、神殿の骨格になる青銅のものはまさか持っていかないだろうと思っていたと思います。けれども、エレミヤはこれらも持ち去られるという預言を 27 章 19 節から 22 節までで行なっています。

52:24 侍従長はさらに、祭司のかしらセラヤと次席祭司ゼパニヤと三人の入口を守る者を捕え、52:25 戦士の指揮官であったひとりの宦官と、町にいた王の七人の側近と、一般の人々を徴兵する将軍の書記と、町の中にいた一般の人々六十人を、町から捕え去った。52:26 侍従長ネブザルアダンは彼らを捕え、リブラにいるバビロンの王のもとへ連れて行った。52:27 バビロンの王は彼らを打ち、ハマテの地のリブラで殺した。こうして、ユダはその国から捕え移された。

ゼデキヤだけではなく、祭司たちも殺されました。彼らが自分勝手に治め、偽りを行なっているため、滅ぼされることをエレミヤは預言していました（13:13-14 等）。

<u>3B 捕囚の民の最後 28－34</u>

52:28 ネブカデレザルが捕え移した民の数は次のとおり。第七年には、三千二十三人のユダヤ人。52:29 ネブカデレザルの第十八年には、エルサレムから八百三十二人。52:30 ネブカデレザルの第二十三年には、侍従長ネブザルアダンが、七百四十五人のユダヤ人を捕え移し、その合計は四千六百人であった。

捕囚の人数ですが、これは時期も人数も若干ずれています。バビロン捕囚は主に三つあります。第一回は紀元前 605 年です。ダニエル書1章の始めに記されています。この時に王族などが捕え移され、ダニエルと三人の友人がいました。次に 597 年です。この時は、エホヤキンが捕え移された時で、大規模でした。そして 586 年です。けれども、「第七年」は、598 年、「第十八年」は 587 年、そして、「第二十三年」は 582 年です。おそらくは、第二次捕囚の手前でとりあえず連れて行った人数ではないかと思います。そして正式に連れて行く人数が列王記第二 24 章 14 節にあり、一万人とあります。同じように、第三次捕囚前でも行ない、それから最後、582 年はもしかしたら、総督ゲダルヤが殺されてから、そこに秩序を回復しなければいけないので、745 人の残されたユダヤ人がいたので連れて行ったのかもしれません。

52:31 ユダの王エホヤキンが捕え移されて三十七年目の第十二の月の二十五日に、バビロンの王エビル・メロダクは、彼が即位した年のうちに、ユダの王エホヤキンを釈放し、獄屋から出し、52:32 彼に優しいことばをかけ、彼の位をバビロンで彼とともにいた王たちの位よりも高くした。52:33 彼は囚人の服を着替え、その一生の間、いつも王の前で食事をした。52:34 彼の生活費は、死ぬ日までその一生の間、日々の分をいつもバビロンの王から支給されていた。

これは、エレミヤの預言の原則に沿った、大事な歴史的事実です。第二次バビロン捕囚時に捕え移されたエホヤキンは、ネブカデネザルの息子エビル・メロダクが王位に着いた時に、彼に良くしてくれています。父ネブカデネザルが七年間、理性を失って獣のようになったことがダニエル書 4 章に書かれていますが、その時にエビル・メロダクは喜んで、自分こそが王であると高ぶった。けれども父が七年後に回復し、罰として牢屋に入れられた。同じ監獄に、エホヤキンがいて、友になった、という話があります。それで実際に父ネブカデネザルが死んで自分が王になったときに、彼の地位を回復させてあげた、というものです。

これが本当かどうか、エホヤキンが確認はできませんでしたが、神側の理由ははっきりしています。エホヤキンは、バビロンの王に降伏しているのです。列王記第二 24 章 12 節に、「ユダの王エホヤキンは、その母や、家来たちや、高官たち、宦官たちといっしょにバビロンの王に降伏したので、バビロンの王は彼を捕虜にした。」とあります。彼は悪い王でしたが、バビロンの王に服せという神の御心に沿ったことを行なったので、このように地位の回復がありました。

いかがでしょうか、次回は哀歌を学びますが、バビロンが破壊されるという先が分かるからこそ、今、バビロンに降伏する姿に耐えることができます。今は悲しむべきことかもしれませんが、喜びに至る悲しみであることを覚えることができます。